



教員紹介

英文学



麻生 えりか Erica Aso

【イギリス小説】

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程満期退学。専門は現代イギリス小説。主な研究テーマはアウトサイダーと戦争の表象。共著書に『終わらないフェミニズム——「働く」女たちの言葉と欲望』（研究社、2016年）、『戦争・文学・表象——試される英語圏作家たち』（音羽書房鶴見書店、2015年）、『もっと知りたい名作の世界⑥ ダロウェイ夫人』（ミネルヴァ書房、2006年）など。訳書に『テロリズム——その論理と実態』（青土社、2004年）、共訳書に『D・H・ロレンス全詩集』（彩流社、2011年）など。



Thomas Dabbs トマス ダブス

【演劇・文化研究】

My training and teaching is primarily Shakespeare and Early Modern drama. I also teach the English Bible. My research and recent publication has been on using digital humanities platforms to examine the rise of secular drama during the Elizabethan period.



伊達 直之 Naoyuki Date

【イギリス詩・文化研究】

専門は英詩・英語詩と「詩学」。19世紀から20世紀の英国・アイルランド文化研究。言語、美術、建築、映像、音楽、アニメ等様々なメディア表象の文化論的研究。
現在のテーマは戦争表象における倫理の働きや、日本、ヨーロッパ、米国詩歌の比較研究。共著書：『戦争・詩的想像力・倫理』、『戦争・文学・表象——試される英国圏作家たち』、『ギンシア劇と能の再生』など。論文：『Ezra Pound and American Little Magazines, 1912-1919』（英国ヨーク大学 Ph.D. 学位論文）など。



久野 陽一 Yoichi Kuno

【イギリス小説】

主にイギリス 18 世紀—17 世紀終わりの名誉革命体制から 19 世紀初頭までを含めた「長い 18 世紀」—の文学を、社会や文化の問題も重ねながら読んでいきます。イギリス近代小説勃興論、在英黒人文学・文化、オリエント物語などに関心があります。共著に『ローレンス・スターンの世界』（開文社出版、2018年）、翻訳書に『アフリカ人、イクイアーノの生涯の興味深い物語』（研究社、2012年）など。



松井 優子 Yuko Matsui

【イギリス小説】

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程満期退学。専門はイギリス小説・文化。現在は主に、小説ジャンルの展開や文化的アイデンティティとの関係について、特にロマン主義時代からモダニスト・ルネサンス期にかけての歴史小説の受容を中心に研究しています。著書に『スコット』（勉誠出版、2007年）、共（編）著に『憑依する英語圏テクスト』（音羽書房鶴見書店、2018年）、『読者ネットワークの拡大と文学環境の変化』（2017年）など。



笹川 渉 Wataru Sasakawa

【イギリス詩】

初期近代イギリス文学、特にジョン・ミルトンを始めとする、エリザベス朝から王政復古期までの作家による韻文を専門としています。文学と政治・宗教の関わりについて、同時代の印刷本の図版や絵画も手がかりにしながら考察しています。共著書：『Spenser in History, History in Spenser』（大阪教育図書、2018年）、『17世紀の革命／革命の17世紀』（金星堂、2017年）、『十七世紀英文学を歴史的に読む』（金星堂、2015年）など。



田中 裕介 Yusuke Tanaka

【イギリス文学・文化】

一橋大学大学院言語社会研究科博士課程修了（学術博士）。専門は、イギリス 19 世紀の文学・文化。現在は主に、オスカー・ワイルドの著作を、歴史学、文献学、人類学、古典学との関係において研究する。共著に『混沌と抗戦——三島由紀夫と日本、そして世界』（水声社、2016年）など。翻訳書に、フランク・トレントマン『フリートレッド・ネーション』（NTT出版、2016年）、フランコ・モレッティ『ブルジョワ』（みすず書房、2018年）など。



橋本 智弘 Tomohiro Hashimoto

【グローバル文学】

専門はポストコロニアル文学／理論。ナショナリズムと文学的想像力の連関に一貫した興味を持っています。現在は、グローバル化のなかでナショナリズムがいかに変質しているか、ポストコロニアル研究の見地から近年の世界文学論へどのように介入できるか、エコロジーの問題をポストコロニアル作家がどうやって扱っているか、などを考察しています。共著に『クリティカル・ワード 文学理論』（フィルムアート社、2020年）、『ノーベル文学賞にもっとも近い作家たち』（青月社、2014年）。

教員紹介

米文学



外岡 尚美 Naomi Tonooka

【アメリカ演劇】

ハワイ大学大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門は演劇学、特に 20 世紀から現代までのアメリカ演劇とパフォーマンス・アートを研究対象としています。最近のテーマは 20 世紀後半以降の舞台芸術における苦痛の表象およびリベラリズムについて。授業ではモダンドラマの古典的名作から前衛劇までを演劇の諸理論をふまえながら読みます。共著『戦争・詩的想像力・倫理』、『都市』のアメリカ文化学、『ギリシア劇と能の再生—声と身体』、『境界を越えるアメリカ演劇』等。



Mary A. Knighton メアリ A. ナイトン

【アメリカ研究・文学】

アメリカ地域／リジョナリズムとグローバルモダニズム (日本文化も含む) との絡み合いのほか、ポストコロニアル理論やフェミニスト理論・文学批評などが関心の対象です。In English, let me add here that my research in recent years has focused on print culture, particularly illustration and cover art, together with the business of the literary book. In Japanese and English both, I continue to research and work on environmental issues, too, as they intersect with my book project on insects (and *mushi*) in Japanese literature.



結城 正美 Masami Yuki

【環境文学・アメリカ文学】

ネヴァダ大学リノ校大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門は、エコクリティシズム、環境文学研究。比較研究的・学際的見地から、汚染と食の言説、リスク感覚の多元的表出、人新世をめぐる文学的課題等に取り組んでいます。著書『水の音の記憶—エコクリティシズムの試み』(水声社、2010 年)、共編書 *Ecocriticism in Japan* (Lexington, 2018)、共著書 *The Routledge Companion to the Environmental Humanities* (Routledge, 2017)、*A Global History of Literature and the Environment* (Cambridge UP, 2017) 等。



来馬 哲平 Teppei Kuruma

【アメリカ詩】

専門はアメリカ詩。研究テーマは、アメリカ詩人たちを、主にクイア批評の観点から再考すること。論文に "Close, Cool, High": Hart Crane's 'Southern Cross' and Mobilizing a Distant Closeness" (*The Journal of the American Literature Society of Japan*, no. 14, 2016)、"Thou Shalt Not Always Walk in the Sun": Ezra Pound の『未熟』な主体」(*Ezra Pound Review* 第 20 号、2018)、"But I Never Knew You Anyway"—SNS 時代の Frank O'Hara」(*日本アメリカ文学会東京支部会報* 第 79 号、2018) など。



西本 あづさ Azusa Nishimoto

【アメリカ小説・文化研究】

専門はアフリカ系アメリカ文学・文化研究。アメリカ文学・文化におけるキャンオン形成、人種表象、多民族国家における記憶と歴史表象、文化的帰属の研究。現在のテーマは、公民権運動後のアフリカ系アメリカ文学・文化形成と時代の相関関係の分析。共著書：『新たなるトニ・モリスン』、『ターミナル・ヒギニング』、『カリブの風』他。訳書：『アメリカ先住民の宗教』、『トニ・モリスン—寓意と想像の文学』(共訳)、『世界文学史はいかにして可能か』(共訳) 他。



齊藤 弘平 Kohei Saito

【アメリカ小説・文化研究】

19-20 世紀のアメリカ文化、小説、知識史を対象とし、いかにして美や価値、生と性、健康と病気、自己と他者等々を巡る、近代的な「知」の構造が生産されたり、共有されたり、あるいは放棄されたり復活したりしてしまうのか? を研究しています。文学や映画から大衆音楽や家電製品まで、広くアメリカ文化全般について、歴史的な実証研究と理論的な分析研究の両輪を、ほどよいバランスで回転させられるように、いつも研究者としてのふれないうえに、読者の目線から、アメリカ文学・文化における身体表象について考えることをプロジェクトにしています。



若林 麻希子 Makiko Wakabayashi

【アメリカ小説・文化研究】

ニューヨーク州立大学バッファロー校大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門はアメリカ小説。現在の研究テーマは、初期アメリカ文学におけるニューヨークの意義について再検討を加えています。他にも、18 ~ 19 世紀建国期文学、女性文学、家庭小説、書簡体小説などに関心を持って研究を行っています。共著として『アメリカ文学入門』(三修社、2013 年)、『アメリカン・レイバー』(彩流社、2017 年) 等。

英語学



Elin McCready エリン マクレディ

【英語学・言語学】

Thinking about meaning in linguistics and philosophy is a way to access knowledge you didn't know you had: about how you think, about how word interacts with world, about how our views are framed by their language. This course will help you find it.



中村 光宏 Mitsuhiro Nakamura

【音声学・音韻論】

ロンドン大学ユニバーシティコレッジ音声学・言語学科博士課程修了 (Ph.D. in Phonetics)。専門分野は音声学・音韻論です。音声産出・知覚機構における調音運動の制御と言語構造との関係を研究しています。話しことばにおける発音変化、音形選択の要因、英語発音の多様性、外国語学習者の音声産出など、言語の観点から音声の調音・音響・知覚の特性を探求し、音声コミュニケーションの仕組みを解明したいと考えています。



葛西 宏信 Hironobu Kasai

【英語学・言語学】

ハーバード大学言語学科博士課程修了 (Ph.D.)。専門は言語学・英語学、特に統語論。文がどのように構築され、そしてどのように音声化されるのか、という問題に取り組んでいます。また、統語現象における言語間の差異をどのようにとらえるか、ということについても、英語や日本語を中心に研究しています。これまで研究してきた現象としては、日本語の主格目的語、英語の寄生空所、等位接続構造に関する諸現象、省略現象、日本語のかきませ、英語の右方移動などがあります。



高橋 将一 Shoichi Takahashi

【理論言語学】

マサチューセッツ工科大学言語学哲学科博士課程修了 (Ph.D.)。専門は、理論言語学。文などの意味解釈が、言語の構造構築になんらかの形で影響を与えることがあるのかといった統語論と意味論のインターフェイスに関わる問題を生成文法理論の枠組みの中で研究しています。特に、移動や削除といった現象に興味があります。詳しい研究内容は、*Linguistic Inquiry* や *Natural Language & Linguistic Theory* に掲載されている論文を参照してください。

英語教育学・コミュニケーション



Joseph V. Dias ジョセフ ディアス

【TESOL】

Specialties:

- TESOL; Intercultural Communication
 - CALL コンピューターの長所を活かして語学学習をサポートする教授法
- Research themes:
- * TESOL 他言語話者に対する英語教授法
 - * Investigating how CALL, and mobile technology in particular, can change the role of teachers
 - * Telecollaborative intercultural exchanges



田中 深雪 Miyuki Tanaka

【通訳学・翻訳学、語学教授法】

コロンビア大学大学院修士課程修了（応用言語学・TESOL専攻）。研究テーマは、通訳・翻訳の理論と実践、教授法など。また通訳・翻訳者の歴史に関する研究も続けている。主な論文として「通訳・翻訳教育の視点から見るリーディング指導への不安 — 「訳す」という活動の扱いをめぐる」『通訳教育論集』、「長崎における阿蘭陀通詞に関する考察— 地役人としての立ち位置とその評価をめぐる」『通訳翻訳研究』第15号など。



大川 道代 Michio Okawa

【パフォーマンス・スタディーズ、スピーチ・コミュニケーション】

研究テーマは、社会変革のためのパフォーマンスと日常生活におけるパフォーマンス。論文に「リフレクティブ・ティーチングによる授業研究—スピーチとディベートを統合したコミュニケーション教育—」青山学院大学文学部「紀要」第58号61-85頁（単著）2017.3。著書に「第8章 社会変革を目指すパフォーマンスの意義と展開」『第9章 フェスティバルで発表された創作台本』『オーラル・コミュニケーションの新しい地平』（堀沢泰子、野村和宏、大川道代編著）（単著）2013.6。「はしがき」、『第11章 パフォーマンス教育の意義と展開』『オーラル・コミュニケーションの理論と実践』（JACET オーラル・コミュニケーション研究会編著）（単著）2002.8 など。



Andrew Reimann アンドリュー ライマン

【TESOL】

私のおもな研究は社会言語学であり、なかでも異文化コミュニケーションに重点をおいています。英語は世界共通語とされていますが、世界各国の多くの人々が様々な環境や文化をもっているなか、コミュニケーションをとるためには、単に言語だけではなく、その背景になる環境や文化を理解した上で、交流することが重要であります。授業においては、世界の文化を比較し、人々の異なる価値観を理解するために、言語、宗教、歴史、文化、そして世界情勢などについての知識を深めます。



Peter Robinson ピーター ロビンソン

【英語学】

I completed an M.A. in Applied Linguistics at the University of London, and a Ph.D. in Second Language Acquisition at the University of Hawai'i at Manoa. My areas of research are the roles of attention and awareness in implicit and explicit language learning; individual differences in cognitive abilities for learning; and effects of the cognitive complexity of task demands on interaction, learning and speech production.



横谷 輝男 Teruo Yokotani

【英語学】

専門領域は英語音声学・音韻論で、語強勢や音節付与が主たる興味の対象と言えます。ただ、近年は綴り字と発音の規則への関心が強く、生成音韻論的な接近方法を採用入れた「実用的な規則集」の作成に動むことが多いです。最近の著作としては、本学の英文学会誌や紀要に投稿した「弱母音の〈u〉のための発音規則」（2017年）、「〈e, i〉が引き起こす硬口蓋歯茎化のための発音規則」（2018年）があります。



稲生 衣代 Kinuyo Ino

【通訳学】

タフツ大学フレッチャ―法律外交大学院修了。専門は通訳学。通訳実務経験に基づき研究を進め、現在の研究テーマは、放送ジャーナリズムにおける通訳、通訳教育、職業としての通訳。共著に『英語通訳への道』（大修館書店）、『VOAスペシャル』（コスモピア）など。



野邊 修一 Shuichi Nobe

【言語心理学・非言語コミュニケーション】

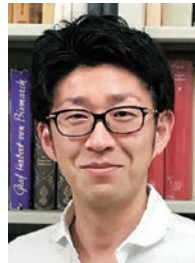
シカゴ大学（The University of Chicago）大学院心理学研究科認知・コミュニケーション学専攻修了（Ph.D.）。流通科学大学専任講師、青山学院大学専任講師を経て、同教授。最近の論文等として、「ジェスチャー」（針生（編）『言語心理学』朝倉書店）、「言語とジェスチャー」（重野（編）『言語と心』新曜社）、「身振りと言語発達」（岩立・小椋（編）『よくわかる言語発達（改訂新版）』ミネルヴァ書房）がある。



小野寺 典子 Noriko Onodera

【語用論・社会言語学】

米国ジョージタウン大学大学院言語学部博士課程修了（Ph.D. 言語学）。専門は、言語学・語用論、談話分析、社会言語学・歴史語用論（文法化・意味変遷等）。主な著書 Japanese Discourse Markers (Benjamins 2004年)、単編著書『発話のはじめと終わり』（ひつじ書房 2017年）、共編著書『歴史語用論の方法』（ひつじ書房 2018年）、Journal of Historical Pragmatics 17.2号 特集 Periphery (周辺部) (2016年) ほか。特に、英日語会話の談話標識に関心があり、共時的・通時的研究をしています。研究室サイト <http://www.cl.aoyama.ac.jp/~onodera/> をご覧ください。



飯田 敦史 Atsushi Iida

【英語教育学】

米国ペンシルベニア州立インディアナ大学博士後期課程修了（Ph.D. in Composition and TESOL）。専門は英語教育学、第二言語ライティング、質的研究法。特に詩や俳句を用いた英語クリエイティブライティングを得意とし、自己表現のための文章創作活動の開発と教育効果の実証研究に取り組んでいる。研究成果は、著書 "International Perspectives on Creative Writing in Second Language Education" (Routledge, 2022)、また、Qualitative Inquiry, System, Assessing Writing など様々な国際学術誌に掲載されている。



アレン玉井 光江 Mitsue Allen-Tamai

【英語教育学】

テンブル大学大学院教育学研究科・博士後期課程修了。教育学博士（Ed.D.）。専門は小学校英語教育、第二言語習得。研究テーマは児童の英語リタラシーの発達と英語習得における Storytelling の効果。著書に『小学校英語の教育法—理論と実践』（2010、大修館）、『Story Trees』（2013、小学館集英社プロダクション）、『New Horizon』（編集委員 2016、東京書籍）。



寺澤 盾 Jun Terasawa

【英語史・中世英語英文学】

ブラウン大学大学院博士課程修了（Ph.D.）。専門は英語史、中世英語英文学。英語が辿ってきた1500年余りの歴史を研究している。世界に拡がった英語の多様性にも関心をもつ。著書として『英語の歴史』（中央公論新社 2008）、『聖書でたどる英語の歴史』（大修館書店 2013）、『英単語の世界』（中央公論新社 2016）など。他に中世英詩韻律を扱った研究もある：Nominal Compounds in Old English (Rosenkilde and Bagger, 1994), Old English Metre: An Introduction (University of Toronto Press, 2011)。